

2020 年版を改訂

膜構造の建築物・膜材料等の技術基準及び同解説 2025 年版



●改訂の概要

膜構造の建築物及びテント倉庫建築物については、平成12年に、膜構造の建築物及びテント倉庫建築物に関する技術的基準（平成14年国土交通省告示第666号及び第667号）が制定されました。

今般、令和6年に改正された国土交通省告示第666号および第667号では、膜面の投影面積の制限や膜材料等の変形制限が合理化され、膜構造の特性を活かした建築物の自由度が拡大しました。

そこで、令和元年に出版された「膜構造の建築物・膜材料等の技術的基準及び同解説 2020 年版」を改訂し、今回の令和6年の告示の改正点に関する解説を追加するとともに、より理解しやすく、実務に役立つものとなるよう内容の充実を図りました。

発 行	一般財団法人日本建築センター
監 修	国土交通省国土技術政策総合研究所 国立研究開発法人建築研究所
編 集	膜構造の建築物・膜材料等の技術基準及び 同解説改訂編集委員会
定 価	6,600 円(税込) 情報交流会正会員価格 5,940 円(税込)
体 裁	A4 判 290 頁
発 行 日	令和7年12月26日
I S B N	978-4-88910-201-7

目 次

第1編 膜構造の建築物・膜材料等の技術基準及び同解説

第1章 序

- 1.1 本書の位置づけ
- 1.2 構造規定の適用関係
- 1.3 本書で用いる用語
- 1.4 関係告示のこれまでの主な改正点
- 1.5 構造計算適合性判定について

第2章 膜構造建築物の技術的基準

- 2.1 総則
- 2.2 適用の範囲等
- 2.3 膜面の構造
- 2.4 膜面の定着
- 2.5 耐久性等関係規定の指定
- 2.6 膜構造の建築物の構造計算
- 2.7 その他の構造計算に関する規定
- 2.8 許容応力度等

第3章 テント倉庫建築物の技術的基準

- 3.1 総則
- 3.2 適用の範囲
- 3.3 膜面の構造
- 3.4 膜面と基礎又は土台との接合
- 3.5 耐久性等関係規定の指定
- 3.6 基礎に関する構造計算
- 3.7 テント倉庫建築物の構造計算

第4章 膜材料、テント倉庫用膜材料及び膜構造用フィルム

- 4.1 総則
- 4.2 膜材料等の品質基準及び測定方法等
- 4.3 膜構造建築物及びテント倉庫用建築物に使用する膜材料等の基準値
- 4.4 膜材料等の構成材及び使用環境条件等に応じて必要となる品質の基準値として定められた品質基準の例
- 4.5 膜材料等の法第37条に基づく認定
- 4.6 膜材料等の検査項目及び検査方法
- 4.7 その他の品質に関する技術的基準
- 4.8 工場における製品の品質検査及び品質管理の実地確認

第5章 防火関連規定の概要

- 5.1 膜構造の建築物及びテント倉庫建築物に適用される防火関連規定
- 5.2 膜構造の建築物
- 5.3 テント倉庫建築物
- 5.4 防火材料としての膜材料

第2編 構造計算例概要

- 計算例1 骨組膜構造
- 計算例2 サスペンション膜構造
- 計算例3 テンション方式（膜構造用フィルム）
- 計算例4 クッション方式（膜構造用フィルム）
- 計算例5 固定式テント倉庫建築物
- 計算例6 可動式倉庫建築物

参考資料

全国の書店で取扱い・販売
日本建築センター（<https://www.bcj.or.jp>）でも販売
お問い合わせ：一般財団法人日本建築センター 情報事業部
東京都千代田区神田錦町 1-9 TEL 03-5283-0478

